

「まちと暮らす」ソーシャルアパートメント ワールドネイバース清澄白河

皆さんは今、どんな住まい方をしていますか？

近年、ライフスタイルの多様化とともに、「自分らしい住まい方」や「人とのつながりを重視した暮らし」に関心を寄せる人が増えています。

そのため、人を繋ぐ「場」作りを行っている団体が増えてきています。

今回紹介するのは、江東区・清澄白河にあるソーシャルアパートメント「ワールドネイバース清澄白河」。株式会社グローバルエージェンツ代表の山崎さんが2000年代初頭に創業当初のFacebookやmixiなどのSNSに出会い、インターネット上でつながりを創出していく魅力に触れ、「そのつながりをリアルに体現したい」という思いから始まった取り組みです。

取材には、同社の吉田さんと林さんにご協力いただきました。

【所在地】東京都江東区平野 4-13-1

【アクセス】東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄大江戸線 「清澄白河」駅
徒歩 14 分 東京メトロ東西線 「木場」駅 徒歩 14 分

【築年】1992 年

【構造】鉄骨鉄筋コンクリート 陸屋根地上 10 階

【世帯数】134 世帯



■ ワールドネイバース清澄白河と街

ワールドネイバース清澄白河の建物は、全 134 戸の住居と多彩な共用部から成る大型ソーシャルアパートメントです。

1 階にはカフェとコインランドリーが併設されており、居住者以外にも解放されているため地域とのつながり創出の役割も担っています。カフェの利用料 5,000 円は賃料に含まれていて居住者は無料で利用できます。洗濯を待つ時間を共有することで、自然に交流が生まれるアメリカのランドリーを参考にした仕組みです。



カフェ



コインランドリー

ラウンジとキッチンには大きなスクリーンやテーブル、カウンター席を備え、食事や仕事、団らの拠点になっています。流しやコンロも複数基あり、各部屋ごとにパントリーボックスが用意されています。



ラウンジ



キッチン

ワーキングスペースは落ち着いたトーンの家具でシンプルに整えられており仕事に集中できる環境が広がっていました。

最上階のバーラウンジは打ち合わせや仕事にも利用でき、屋上テラスでは BBQ も可能です。

周辺は大横川や福寿橋、木場公園といった歴史ある環境に囲まれ、自然と都市生活の両方を享受できる立地です。



ワーキングスペース



バーラウンジ



屋上テラス



■ 創業の背景と理念

代表の山崎さんは、2000 年代初頭に Facebook や mixi で築かれる人間関係の多様さと自由さに感銘を受けました。「世代や立場を越えて、必要なときに好きな相手とつながれる」その感覚を住まいに取り入れたい。そうして始まったのがソーシャルアパートメントです。

運営会社グローバルエージェンツが掲げるメッセージに、「自己実現に邁進していける社会づくり」があります。人との出会いが人生やキャリアを変えるきっかけとなり、その結果が社会貢献につながる。社会貢献を目的に掲げるのではなく、自己実現の結果として持続可能な社会を目指しています。

■ 企業が運営するスケールの強み

シェアハウスなど共に暮らす住まいは、多くの場合、強い思いを持った個人オーナーが支えてきました。

一方でワールドネイバーズ清澄白河を運営するグローバルエージェンツは、従業員 850 名¹という大規模な体制。それでも社員一人ひとりが代表の思いに共感し、理解を持って取り組んでいるため、創業者の理念が組織の隅々まで息づいている点が大きな特徴です。

■ ネットの人間関係をリアルで再現

SNS のメリットのひとつは、世代や立場を超えた交流や、必要なときにカジュアルにつながれる自由さです。

ソーシャルアパートメントでは、この感覚がリアルに再現されています。

例えば、ラウンジに降りる頻度は自分で調整可能。人疲れを避けたいときは距離を置き、誰かと関わりたいときには気軽に参加できる。こうした「選べる距離感」があることで、濃密すぎない安心感と親しさが同居する環境が実現しています。

■ 共用スペースが生む「選べる距離感」

この規模で多くの人がつながりを持って暮らせる理由は、共用スペースの設計思想にあります。

一般的なシェアハウスは「ひとつの空間を複数人で割る」という考え方ですが、ソーシャルアパートメントでは違います。ランドリーやキッチンが「交流のきっかけとなるプラスアルファの場」として設計され、エレベーターと同様に運営側が責任を持って管理や清掃を行っています。共用部分は利用した入が綺麗にするのが原則ですが、ハウスキーパーが清掃することで、入居者は安心して使え、自然な交流が日常的に生まれる仕組みです。

■ 入居者同士の広がりを支える仕組み

入居者専用アプリ「ネイバーランド」もユニークな特徴です。契約情報やお知らせ確認に加え、プロフィール公開機能やサークル活動があり、すでに100を超えるサークルが存在。映像制作や料理サークルなど、多様な活動を通じて、物件を超えた交流が広がっています。

■ 編集後記



足立

取材を通して驚いたのは、「ネットの人間関係のメリットをリアルでここまで再現できるのか」という点でした。

私自身、SNSを通じて幅広い年代の人とつながってきましたが、ソーシャルアパートメントではその感覚が日常の生活空間に組み込まれていました。

「選べる距離感」で人と関わりながら暮らせる住まい方は、都市での孤立感を和らげ、地域や街への愛着を深める新しい選択肢になるのではないのでしょうか。

みなさんもぜひ自分の住まい方を考えてみてください！



取材にご協力いただき、ありがとうございました！

ⁱ ソーシャルアパートメント事業の他に、ホテル・飲食・コワーキング事業にも展開しており、全事業部の人数